

## 日本経済

### 円高と円安

- 円高: 円の価値がドルに対して高くなっている状況
- 円安: 円の価値がドルに対して低くなっている状況
- ここで問題。昨日は1ドルが120円だったが、今日は1ドルが100円になったとすると、これはどっち？
- 今日は“昨日よりも少ない円”で1ドルがもらえるようになった
- つまり、今日は昨日よりもドルに対して円の価値が上がった→**円高に進んだ**

### 円とドルの為替相場の決まり方

- ドルを円に交換したい人(円が欲しい人)と円をドルに交換したい人(ドルが欲しい人)のバランスによって決まる
- 円を欲しい人がドルを欲しい人よりも多い  
→**円高に進む**
- 円を欲しい人がドルを欲しい人よりも少ない  
→**円安に進む**

### 為替相場の決まり方の例

- 1ドル=100円の時、円が欲しい人がたくさんいて、ドルが欲しい人が1人しかいなかったとする
- 円が欲しい人は、唯一ドルが欲しい人から自分が円を得るために為替相場よりも少ない円でいいからと他者と競い合う
- こうして、円の価値はどんどん上がっていき、円を持っている人はできるだけ儲かる状態で円をドルと交換する
- 最終的に1ドルを80円と交換したとすると、このときの円とドルの為替相場は1ドル=80円となる(1ドル=100円の時より20円の**円高**になった)

### 国内総生産(GDP)

- 国内で新たに生み出された“付加価値”の合計金額
- 国内で生み出された商品やサービスは誰かが買うので
- $GDP = \text{個人消費} + \text{民間投資} + \text{政府支出} + \text{純輸出} + \text{在庫品}$
- 上記の式が成り立つ。よって、
- $GDP = \text{国内で使われお金の合計}$ と見ること  
もできる

### 国内総生産(GDP)②

- 2007年度の日本の(実質)GDPは約563兆円
- 個人消費に当たる部分は約315兆円であり、**約56%**を占めている
- 今後の日本経済が力強く回復するためには消費者による個人消費の回復が必要不可欠である

## 世界における日本の位置

GDP世界2位！

ちなみに

1位アメリカ 3位ドイツ 4位中国 5位イギリス・・・

しかし・・・

一人当たりGDP 今やTOP10圏外

(87年には1位だったことも)

## 経済成長率

- GDPが前の年のGDPに対して何%増えたのか、という割合
- 名目GDP: 物価の変動を考えないで求める
- 実質GDP: 物価の変動を考えて求める
- 通常はGDPは実質GDPを指す

## 潜在成長率

- 国が本来持っている経済力を最大限に発揮することができたときに予想される経済成長率
  - 日本の潜在成長率は2%かそれ以上だといわれている
  - 日本の(実質)経済成長率
- | 年度            | 暦年         |
|---------------|------------|
| - 2004年度 2.0% | 2005年 1.9% |
| - 2005年度 2.4% | 2006年 2.4% |
| - 2006年度 2.5% | 2007年 2.1% |
| - 2007年度 1.6% |            |

## 日本の潜在力

### 世界50カ国潜在力調査

今後10年間にどれだけ1人あたり国内総生産を増加させるか

2007年 13位に大幅に順位 DOWN ↓

(日本は1980年6位、1990年9位)

強い分野は「科学技術」「企業」

弱い分野は「政府」「インフラ」「金融」

## 日本の競争力

世界経済フォーラム (WEF)

2006年度 世界競争力ランキング 8位

高評価 技術革新、ビジネスの洗練度

民間企業の技術力や経営に関する分野

低評価 マクロ経済環境

財政赤字や政府債務で

## 産業天気図

### 2008年4—6月期(日本経済新聞社)

1月時点の予測と比べると、9業種が悪化

米経済の急減速などを受け

産業天気には雲が急速に

「晴れ」3業種 プラント・造船など

「曇り」17業種 ホテルなど

「小雨」2業種 紙・パルプなど

## インフレ

- 需要が供給を上回ることで、物価が上がり続ける状態
- 物価が上がるとは、モノの価値(値段)が上がる
- つまり、モノを買うためのお金の価値が下がるということである

## インフレになる要因

- 需要インフレ: 需要が供給を上回るほど高まることによって起こる物価の上昇
- コストインフレ: 生産コスト(材料費、人件費など)が上がることによって起こる物価の上昇

## デフレ

- 供給が需要を上回ることで、物価が下がり続ける状態
- 物価が下がるとは、モノの価値(値段)が下がる

## デフレスパイラル

- デフレの状況がグルグルとまわって繰り返されていき、“物価の下落”と“景気の悪化”が同時に進んでいく状態

## スタグフレーション

- 景気が停滞しているにもかかわらず、インフレが続くこと

## 貿易と為替

- 貿易黒字国である日本にとっては円高よりも円安のほうが都合がいい
  - 円安になるとアメリカから見た日本の商品は安くなり、今までより売れる
  - その結果、輸出企業は得をする

## 景気と貿易

- 景気が悪いときには貿易黒字が増える可能性が高い
- 一例として、輸出:40億円、輸入:10億円、貿易黒字額:30億円であったとする
- 景気が悪くなると、国内でモノが売れなくなり輸入が減る
- その結果、輸出:40億円、輸入:5億円になったとすると貿易黒字額は35億円と増える

## なぜ不景気なのか①

- 貿易黒字
  - 輸出額(日本に入ってくるお金)が輸入額(日本から出ていくお金)よりも多い
  - 国内のお金の量が増えていて日本は儲かっている
- 個人金融資産
  - 預貯金、年金、株、保険など個人が持つ財産の合計
  - 日本は1400兆円を超えていてアメリカについて世界第2位

## なぜ不景気なのか②

- ①のように日本はお金持っているのに不景気である
- 景気とは“**お金まわり**”のこと
- つまり、みんながお金をたくさん**持っていれば**景気が良くなるわけではなく、
- みんながお金をたくさん**使わなければ**景気は良くならない
- だが、社会的不安が大きく、みんなが将来に備えてあまりお金を使わないようにしている

## 今日の日本経済

2002年2月から緩やかな景気回復だったが・・・

サブプライム問題  
原油価格の高騰  
原材料高  
ドル安・円高 etc...

日本経済の失速の兆候？

## 日本固有の問題 少子高齢化・人口減少問題

## 人口減少 日本経済への影響

2005年 1億2700万人  
日本の人口 **初めて自然減**  
→2055年 9000万人をきる？  
働き手が減り、市場は縮小

地方はすでに影響深刻  
・社会資本整備の軌道修正  
・税金や公共料金などの収入減

## 日本の年金制度

### ○賦課方式

・現役世代が引退世代を扶養する仕組み

現在 4人で1人を支えている



2025年 2人で1人を支える事に

※年金制度を維持できなる可能性あり

## 将来の年金

年金の一元化

2018年に同じ**18.3%**に引き上げ！

厚生年金(サラリーマン)の保険料支給水準

現在 夫婦モデル世帯 平均手取り年収の6割

2023年 50.2%に！

少子高齢化や経済鈍化で

年金給付額がさらに減る可能性も

## 医療・介護

高齢化の進行→医療費の増大

毎年の医療費の伸び<高齢者医療費

政府は国民健康保険の再編で

高齢者医療を分担する計画

医療費の伸びを

どう経済成長の範囲内に抑えるかが課題

## 税制

少子高齢化で膨らむ医療費をどうするか？

→消費増税の可能性

欧州諸国 消費税15%超

中長期的には日本でも2ケタにのるかも??

## 出典

<http://www.nikkei.co.jp/report/tenki/>

<http://www.jcer.or.jp/research/world/index.html>

『日本経済100の常識』日本経済新聞社